

読書推進運動


 公益社団法人
読書推進運動協議会
 〒101-0051
 東京都千代田区神田神保町1-32
 出版クラブビル6階
 TEL 03(5244)5270
 FAX 03(5244)5271
 発行人 佐々木 泰
 編集人 片岡 伸子

No.682 ★「読書週間」ポスター完成(2頁)

定価 60円 会員の購読料は
会費の中に含まれる



「読書週間」によせて 図書館・書店で リアルな人と本の交流を

活字文化研究所事務局長
(元図書館員・元書店員)

きくち とういち
菊池 壮一

私は昭和一桁世代の父母のもとに生まれ、父は新聞記者、母はタイピストで俳人だった影響で子どものころから本は常に身の回りにありました。特に「こういう本を読め」と言われたこともなく、読む環境には恵まれていたと言えるでしょう。

学校を卒業して、西武百貨店に就職。配属先はなんと池袋店の書籍売場(後のリプロ)でした。ここは私にとって最初の試練になりました。書籍売場は自営で拡大オープン(300坪)したばかり。他の書店から転職してきた手練れの先輩が売場をリードしていました。「こんな本も知らないのか!」「学校で何を勉強してきたんだ!」と叱られる毎日。くやしくて、給料のほとんどを

使って難しい本ばかり買い、必死で読みました(笑)。内容が理解できない本もたくさんありましたが、とにかく目を通したことは私の大きな財産になったと思っています。

その後さまざまな部門の仕事を経験しましたが、2015年リプロ池袋本店を明け渡さざるを得なくなり閉店。私は日比谷図書館文化館に移ります。図書館の業務を一通り経験し図書館界ともパイプができる、これも非常にプラスになりました。

今、書籍・雑誌の販売額は減少が止まらず、書店もほとんど閉店しています。私はこの業界をなんとかしたいと思

い、中立的な立場で発言するため、今年日比谷を卒業。活字文化研究所を立ち上げました。

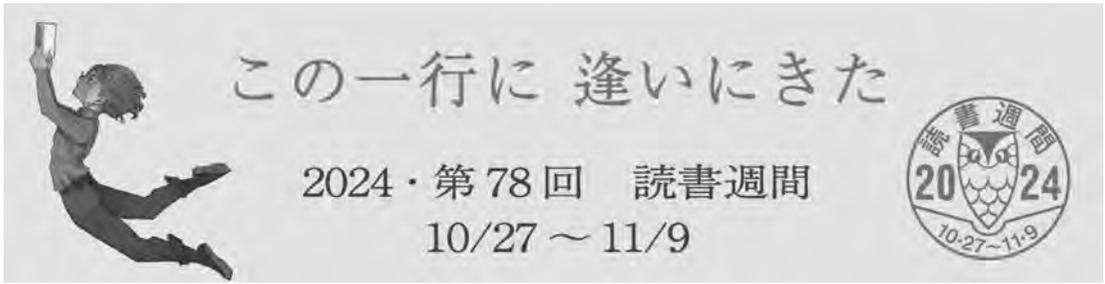
本が売れなくなったり、書店が廃業する原因が、ネットショップだの電子書籍だのと言われますが、電子も含めた総販売額が減少しているのです。私は「スマホに読書時間が奪われている」ことが大きいと思っています。

朝夕の通勤電車の中を見ても、多くの人々がスマホを見ており、紙の新聞や本を読んでいる人はほとんどいない。そう言っている私自身もスマホをいじらない日はない。家に置き忘れたことは何度かあります

が、その都度無念さや不安感が襲われました。そんな経験も踏まえて思うことは、人類は今、ネットやAIに支配されない術を考えなければならぬ。いつか来ているのではないかとこのことです。

7月中旬、千代田区立図書館主催、日比谷図書館文化館で開催された『はじめの一步』出版界の交流・連携についての集会で私は「図書館の本調査と図書館で本を売ることを連携の第一歩にしよう」と訴え、スマホに奪われている読書時間を取り戻すための読書推進運動も協力してやっていこうとお話しをさせていただけました。幸い150人を超える方の参加、賛同をいただいて行動をスタートさせています。

本好きでない人たちにも図書館や書店に来てもらうことは重要課題。強制や押し付けでない読書推進策。本に固執しない斬新な環境整備や、お客さま参加型の楽しいイベント展開、書籍以外の物品販売等々も必要でしょう。図書館や書店あるいは学校を結ぶスタンプラリーもありかもしれません。リアルな現場で血の通った交流は、ネットやAIにはできない武器である、ということを確認して前に進もうと思っています。



「この一行」に出逢う 幸せをすべての人に！



・イラストレーション／熊梨江
・標語／中山実穂
・デザイン／間中幸子（クウ）

「2024 第78回・読書週間」のポスターが完成、9月中旬より順次、発送してまいります。現在、当会ホームページ・公式X（旧Twitter）にて、ポスター画像を公開しておりますので、ぜひ、ご覧ください。

「2024 第78回・読書週間」のポスターが完成、9月中旬より順次、発送してまいります。現在、当会ホームページ・公式X（旧Twitter）にて、ポスター画像を公開しておりますので、ぜひ、ご覧ください。

今年の標語は、「この一行に逢いにきた」です。入選者の中山実穂さん（講談社）は、「本の中にグツとくる一行があつて、何度も何度も目でもなぞり、ついには暗記してしまう。作者はこの一行のためにこの本を書いていて、読者はこの一行に出逢うため読んでいるのだと思うとき、幸福になる自分がいま」と、作者のこぼれ話を述べています。

ポスターイラストは、長崎県長崎市の熊梨江さんの作品。お仕事はなんと、司書さんです！「ページをめくってたどり着いた一行は、心を豊かにしてくれます。感動したり学んだり、どこでも誰でもいつだって読書は成長の糧です」とイラストにこめた思いをよせていただきました。

「この一行に逢いにきた」のポスターが完成、9月中旬より順次、発送してまいります。現在、当会ホームページ・公式X（旧Twitter）にて、ポスター画像を公開しておりますので、ぜひ、ご覧ください。

今年度の「この一行」を家庭で、学校で、地域で、全国で共有しあえる読書週間となりますように。本年度も、日本雑誌協会の特別なご協力をいただき、多くの出版社の雑誌に告知広告掲載のお願いをしました。また、電通の協力で新聞各紙やテレビ・ラジオの情報番組でも取りあげてもらおうよう、努めています。

読書推進運動協議会ホームページ（<http://www.dokusyo.or.jp>）では、ポスター・マークのデータ、このページにも使っているロゴデータ（別デザインもあり）など画像データのほか、図書館、書店での展示に活用いただけるポップ、しおり、ブックカバーのPDFデータを配布しています。今年はこの「この一行」を書きこめるデザインも用意します。展示の様子などをSNSに投稿いただけますと、たいへんうれしく、当会公式Xでもできるかぎり、リポストしていきたいと思っております。

昨年度より、画像データは印刷用・Web表示用の2種類のカラーモードを用意しております。広報紙やチラシなどは印刷用ホームページやデジタルサイネージでの使用の場合はWeb用をそれぞれお選びください。

■第26回 学校図書館出版賞

子どもたちの「知りたい!」を サポートする出版社を顕彰

公益社団法人 全国学校図書館協議会(全国SLA)は、学校図書館向き図書の優良な出版企画に對して出版社を顕彰する「第26回 学校図書館出版賞」を7月15日に発表した。

●第26回 学校図書館出版賞

・学校図書館出版賞

株式会社 岩崎書店

『虫のからだ』新開孝/写真文(全5巻)の刊行

株式会社 さ・え・ら書房

『ニッポン環境問題史』加藤三郎/監修(全4巻)の刊行

株式会社 ゆまに書房

『ビジュアル日本の音楽の歴史』徳丸吉彦(ほか)/著、徳丸吉彦/監修(全3巻)の刊行

(学校図書館出版賞大賞は該当なし)

今回の選考対象は、2023年5月1日から2024年4月30日までに刊行され、全国SLAの選定図書となったもの。『虫のからだ』は、身近な昆虫のからだの仕組みを「はね」「ち

「じょっかく」「あし」「め」の5巻で解説するシリーズで、小学校中学年から高学年まで、幅広く楽しめる内容。著者自身が撮影した昆虫の複眼のアップ、羽の動きの連続写真などで、子どもたちの驚きと発見を呼びおこす。

『ニッポン環境問題史』は、明治維新以後の急速な近代化のなか、日本の環境問題の変化を解説。「近代化の光とかげ」明治・大正・昭和前期「公害別島」昭和中期「地球環境の時代へ」昭和後期・平成前期「環境危機の向こうに」平成後期・令和」の4巻構成で、対象は小学校高学年から中学生。年表、地図、写真や図表が効果的に用いられている。

『ビジュアル 日本の音楽の歴史』は「古代〜中世」「近世」「近代」の3巻で日本人の音楽との関りの歴史を貴重な図版を用いて解説する。縄文時代の楽器から、楽譜の歴史、音楽伝承と幅広く取りあげており、中学生、高校生が日本の音楽史を学ぶ際に不可欠な資料となると、評価された。

■全国図書館大会長崎大会

世界への窓の街・長崎にて 対面・オンラインの両方で開催!

公益社団法人 日本図書館協会や長崎県などが主催する「第110回 全国図書館大会長崎大会」が、11月30日(土)より開催される。大会テーマは「図書館が、つなぐ、人・まち・ミライ」21世紀の出島(長崎)から」。

今大会は、基本的には11月30日(土)〜12月28日(土)のオンライン開催だが、開会式・全体会・懇親交流会など一部のプログラムは11月30日(土)・12月1日(日)に長崎市内で対面形式で実施される。表彰式や交流会など一部を除き、対面形式で開催したプログラムは、収録編集のうえ、随時オンラインで配信される。対面形式の参加申し込みは終了しているが、オンラインでの参加申し込みは10月10日(土)まで、大会公式サイトで受け付けている。

全体会は、植松貞夫さん(日本図書館協会理事長)の基調報告、澤田瞳子さん(小説家)の記念講演「読書がもたらすもの」が予定されている。分科会は、「公共図書館」「大学・

短大・高専図書館」「学校図書館」「児童サービス」「図書館情報学教育」「著作権」「図書館の自由」「図書館利用教育」「障害者サービス」「資料保存」「出版流通」「多文化サービス」「災害と図書館」「非正規雇用職員」「市民と図書館」の15分科会が開催される。うち、「公共図書館」「大学・短大・高専図書館」「学校図書館」は、対面形式で開催。「学校図書館」では長崎県内学校図書館関係者によるトークセッションが澤田瞳子さんを交えて開かれる。また、「災害と図書館」では、「能登半島地震の経験を今後の対策につなげる」をテーマにすえ、能登半島地震で被災した図書館の状況を、現場からの報告と現地への調査の両面から検証し、過去の災害から得られた教訓を鼎談の形式で語りあう。

オンライン参加の申し込み、各分科会の内容紹介など、詳細は大会公式サイトを参照のこと。
●全国図書館大会長崎大会サイト
<https://www.110th-library.com/>



「日本絵本賞」表彰式

表彰式の模様をYouTubeに
配信中!

●第29回 日本絵本賞

「第29回 日本絵本賞」(主催：公益社団法人 全国学校図書館協議会)の表彰式が、7月29日(月)、東京都千代田区の城西国際大学の紀尾井町キャンパス1号棟地下ホールで開催された。同賞では、読書推進運動協議会事務局長が最終選考委員をつとめている。多くの関係者の出席により満員の会場で、以下の4作品が表彰された。

●第29回 日本絵本賞大賞

『ゆづりやけにとけていく』
ザ・キャビンカンパニー/作(小学館)



受賞者による作品紹介や裏話、松本猛さんとのトークセッションも動画で公開

●第29回 日本絵本賞

『おきにいりのしろいドレスをきてレストラフにいきました』
渡辺朋/作、高島那生/絵(童心社)
『かぜがつよいび』
昼田弥子/作、シゲリカツヒコ/絵(くもん出版)
『どんぶり』

たてのひろし/作(小峰書店)
松本猛最終選考委員長から選考経過の報告があり、1冊ずつペー지를開いて見せながら、それぞれの作品の手法の新しいさやレベルの高さについて説明し、「絵本がここまで多くのことを語れるようになった」と述べた。

各受賞者が事前に制作した受賞作品のメイキング動画のパートもあり、引き続き松本委員長との進行による受賞者とのトークセッションが行われ、受賞作にかかわるエピソードが披露された。
この表彰式の模様は「第29回 日本絵本賞」表彰式動画リンク(<https://youtu.be/XrozziRt0A>)で一般にも公開されている。

「国際アンデルセン賞受賞作家・画家展」

国際アンデルセン賞受賞者と
その作品が一堂に!

国立国会図書館 国際子ども図書館と一般社団法人 日本国際児童図書評議会(JBBY)が共催する展示会「国際アンデルセン賞受賞作家・画家展」が10月1日(火)〜12月25日(水)の期間、国際子ども図書館(東京都台東区)で開催される。

国際アンデルセン賞は、子どもの本に貢献してきた作家・画家の全業績に対して、国際児童図書評議会(JBBY)が隔年で贈る賞で「小さなノーベル賞」と称される。展示会では、1956年の初代受賞者、エリナー・ファージョン(イギリス)から、2022年の受賞者マリー・オー・ド・ミュライユ(フランス)、スージー・リー(韓国)まで65名の受賞者とその作品を、国際子ども図書館の所蔵資料で紹介する。貴重なメダルや賞状も展示される。また、同館のホールでは、2024年受賞者のハイソツ・ヤーニシユ(オーストリア)とシドニー・スマイス(カナダ)の最新資料をはじめ、日本の候補者のノミネート資料や、JBBYの歩

みを紹介するパネルを展示し、JBBYゆかりの人々によるメッセージビデオの上映も行われる。

会期中には、JBBYとJBBYが推薦する国内外の子どもの本を展示するコーナー「よむ! きく! あそぶ! JBBYおすすめ ☆世界と日本の子ども本」で、多言語の読み聞かせやゲーム、および、国際子ども図書館職員による「ギャラリートーク」も実施される。また、10月6日(日)には関連講演会も開催される。角野栄子さんの講演動画「旅する物語」と土居安子さん(大阪国際児童文学振興財団理事・総括専門員)の講演動画「角野栄子作品の魅力―国際アンデルセン賞受賞以降の作品を中心に―」を上映したあと、会場からの質疑に土居さんが答える。参加費は無料、参加には事前申し込みが必要(締め切り9月30日(月)、先着順)。

JBBYでは、50周年記念連続講座「日本の国際アンデルセン賞受賞作家たち」の最終回として、



2018年に国際アンデルセン賞を受賞した角野栄子さんとイーゴリ・オレイニコフさん

10月5日(土)に、「物語は水平線を超えて」講師：角野栄子さんを出版クラブビル(東京都千代田区)での対面と、オンライン配信で開催する。参加には事前申し込みと参加費が必要。

「問い合わせ先」

●国立国会図書館 国際子ども図書館(展示会開催中の休館日)ギャラリートークスケジュール、関連講演会詳細と参加申し込み
<https://www.kodomo.go.jp/>

●JBBY(「よむ! きく! あそぶ!」JBBYおすすめ☆世界と日本の子ども本)コーナーでのイベント開催日・イベント詳細、角野栄子さん講演会詳細と参加申し込み
<https://jbbj.org/>

■日本子どもの本研究会 全国大会

猛暑に負けず、全国から395名が参加、講演・講座・分科会などで交流

7月27日(土)、28日(日)、東京都渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターで、「第56回日本子どもの本研究会 全国大会」未来をひらく子どもと本ー子どもを今を見つめ、ともに生きる明日を考えるー」が開催された。

27日の講座は「子どもの読書環境」がテーマで、「ブックトーク」「ブックウェブ」の両方から、読書の楽しさを伝える。読書の楽しさを伝える。読書の楽しさを伝える。

27日の講座は「子どもの読書環境」がテーマで、「ブックトーク」「ブックウェブ」の両方から、読書の楽しさを伝える。読書の楽しさを伝える。読書の楽しさを伝える。



会場内の会員の実践紹介展示でも参加者たちが意見を交換

谷区の子どもの本研究会 全国大会「未来をひらく子どもと本ー子どもを今を見つめ、ともに生きる明日を考えるー」が開催された。27日の講座は「子どもの読書環境」がテーマで、「ブックトーク」「ブックウェブ」の両方から、読書の楽しさを伝える。読書の楽しさを伝える。読書の楽しさを伝える。

谷区の子どもの本研究会 全国大会「未来をひらく子どもと本ー子どもを今を見つめ、ともに生きる明日を考えるー」が開催された。27日の講座は「子どもの読書環境」がテーマで、「ブックトーク」「ブックウェブ」の両方から、読書の楽しさを伝える。読書の楽しさを伝える。読書の楽しさを伝える。



読進協も「こどもの読書週間」ポスター制作過程を展示

谷区の子どもの本研究会 全国大会「未来をひらく子どもと本ー子どもを今を見つめ、ともに生きる明日を考えるー」が開催された。27日の講座は「子どもの読書環境」がテーマで、「ブックトーク」「ブックウェブ」の両方から、読書の楽しさを伝える。読書の楽しさを伝える。読書の楽しさを伝える。

谷区の子どもの本研究会 全国大会「未来をひらく子どもと本ー子どもを今を見つめ、ともに生きる明日を考えるー」が開催された。27日の講座は「子どもの読書環境」がテーマで、「ブックトーク」「ブックウェブ」の両方から、読書の楽しさを伝える。読書の楽しさを伝える。読書の楽しさを伝える。

■「絵本図書館ネットワーク」講演会・ミーティング

作家の講演会を中心に 全国で絵本イベントを開催

「絵本で子育て・まらづくり」を指し、各種講演会・シンポジウムを開催する「絵本図書館ネットワーク」(佐賀県武雄市)が、今年度のイベント開催予定を以下のとおり発表した(敬称略)。

- 第1回 絵本でSDGsミーティング 9月23日(開) 開催地:千葉 県千葉市 講師:真珠まりこ(絵本作家)
第2回 絵本の森を歩こうin杜の都 10月12日(土) 開催地:宮城 県仙台市 講師:石川えりこ(絵本作家)
第3回 絵本で子育て講演会 10月14日(開) 開催地:大阪府大阪 市 講師:さいとうしのぶ(絵本作家)
第6回 絵本を楽しむ講演会 10月26日(土) 開催地:北海道釧路 町 講師:川端誠(絵本作家)
第2回 文庫で絵本ミーティング 11月9日(土) 開催地:神奈川 県横浜 講師:長野ヒデ子(絵本・紙芝居作家)
第1回 絵本と読み物をつなぐミーティング 11月10日(日) 開催地:東京都 講師:村中李衣(児童文学作家)
絵本deタウンミーティングin奈良 11月23日(開) 開催地:奈良 県奈良市 講師:くすのきしげのり(児童文学作家)
第3回 絵本でうちとく・まちどくミーティングin埼玉 11月30日(土) 開催地:埼玉 県三郷市 講師:松本春野(絵本作家)
絵本から聞こえてくる物語 12月14日(土) 開催地:神奈川 県横浜 市 講師:いせひでこ(絵本作家)
第6回 子ども読書活動推進に関するシンポジウム 12月15日(日) 開催地:東京都 講師:柳田邦男(ファンフィクション作家)
第3回 絵本サミットin有田川 2025年1月19日(日) 開催地:和歌山 県有田川町 講師:谷口智則(絵本作家)
会場・時間など詳細、参加申し込み方法は決まりしだい、同ネットワークホームページで確認できる
絵本図書館ネットワークホームページ
https://ehon-lib.net/

■国立国会図書館国際子ども図書館 児童文学連続講座

さまざまなメディアで物語を楽しむ
子どもたちを読書につなげるには？

国立国会図書館国際子ども図書

館(東京都台東区)は、今年度「国立国会図書館国際子ども図書館児童文学連続講座」を10月28日(月)・29日(火)に開催する。

この講座は、児童サービスに従事する全国の各種図書館員など、児童書および児童文学に関する知識を必要とする人のはば広い知識の修得を目的として、毎年開催されている。今回はMicrosoft Teamsを用いて、講義をオンライン同時配信する。また、講義映像はグループディスカッションをのぞき、後日配信される。

今回の総合テーマは、「変わる！子ども読書環境と児童文学」。子どもたちがデジタル端末に日常的にふれ、紙以外の媒体で物語を楽しむ機会が増えている現状を踏まえて、子どもたちの物語の楽しみ方、その楽しさを読書へつなげる方法を考える。

プログラム

●10月28日

「デジタルメディア環境の変化と子どもの発達」講師||佐藤賢輔

(東京大学特任助教)

「変わる／変わらない子どもの本 人気シリーズ『ゾロリ』『ルルとララ』の再検討」講師||藤本志(武蔵野大学教授、国立国会図書館各員調査員)

「グループディスカッション」子どもの読書は変わるのか?」モデレーター||藤本志

●10月29日

「子どもの読書とゲーム」講師||日向良和(都留文科大学教授)

「童話と映画のあいだ」『魔女の宅急便』講師||米村みゆき(専修大学教授)

「国際子ども図書館の読書・学習支援コンテンツ紹介」講師||国際子ども図書館職員

参加費は無料、参加には事前の申し込みが必要(締め切り10月8日、先着順、定員に達し次第受付終了)。1講義ごとでの受講もできる。講座の詳細、申し込み方法は、同館ホームページまで。

●国立国会図書館 国際子ども図書館ホームページ

<https://www.kodomo.go.jp/>

優良読書グループの歩み (9)

2023年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。(順不同)

平家物語音読会

代表者 岩崎 千恵

千葉県夷隅郡御宿町

千葉県読書推進運動協議会
(推薦)

当会は、御宿町内で子どもたちに読み聞かせを行っていたふたりで2008年7月から活動をスタートし、徐々に会員が増えて、現在は14名となりました。

音読は、「声」を音楽のように発し、聞き手に伝えるものであり、読み手の物語への理解を深めることが肝要であることから、最初は原文をそのまま全員や個々にて音読します。そのあと、注釈、現在語訳を読み、当時の文化や歴史を掘りさげて学び、再度全員で音読をするなど、『平家物語』の研究をします。また、会のはじめに10分間の腹式呼吸を行って、腹筋や呼吸筋を鍛えるなどして、音調等の技術向上にも努めています。



『平家物語』を学ぶことで古文、地域文化へも興味を

近隣市町村に点在する松尾芭蕉の歌碑や上総広常に関わる文化財などをめぐる歴史探訪などを行い、地域の歴史・文化についてみんなで語りあひながら、それぞれの時代の歴史背景や文化についても学んでいるところです。

コロナの感染症予防対策などで、これまで活動面の制約がありましたが、以前と同様の活動が可能となってきました。引き続き、会のみなさんとともに楽しみながら

『平家物語』を学び、公民館活動などを通じて、語り手、聞き手を問わず、はば広い年齢層の方々が、古文にふれる機会の提供に努め、そのことが地域での歴史、文化への意識や興味の醸成に繋がれば、と考えながら活動をしています。

会の運営は、代表、会の進行係印刷など庶務担当ほか役割を分担して円滑に行われるよう心がけ、町公民館にて毎月第一火曜日に古文(平家物語)を声を出して全員が読破すること、より多くの方が古文にふれたい楽しむ環境作りを目標に、活動しています。

高齢化が進み、当会も会員の年齢層が高くなってきていますが、『平家物語』というひとつの文学を通じて、みなが集い、共通の目標を持って学びあう時間を過ごせる場を、今後も大切にしていきたいと考えています。

ひだまり

代表者 永島 睦子

島根県松江

島根県読書推進運動協議会
(推薦)

40年ほど前、島根県立図書館の子ども読書推進の意向を受け、地

域の読み聞かせ環境は整えられ、積極的な実践が積み重ねられてきました。こうした地域基盤のなか、1998年、現・松江市立出雲郷小学校PTAにおける読み聞かせボランティアの結成と、地域の子ども読書推進活動とが一体化し、読み聞かせボランティアひだまりの活動はスタートしました。メンバーは、みな、地元在住者で、親子読書の経験者です。現在は、40代から70代のはば広い世代が参加しています。

活動の主体は小学校に置きつつ、地域の保育園・幼稚園・高齢者施設などにおいて、求められるニーズやメンバーの思いにそって柔軟な内容で活動してきました。なかでも、小学校の授業時間をまるまる1時間いただき、提示されたテーマにに応じた読書をし、読み聞かせをする「出前読書」は、チームひだまりの独自性ある活動でしたが、児童数の急増などの理由から実施できなくなりました。この児童クラブでの活動に活かしています。



実演場所に合わせたプログラムを工夫して

昔も今も一貫しています。この姿勢が、ひだまりを継続するベースになっていると思います。また、節目節目で、市や町から評価をいただいたことも大きな励みになりました。

現在は、出雲郷保育園・幼稚園での3・4歳児対象の読み聞かせ「おはなしいいね」、出雲郷小学校では、朝の「さわやか読書」と昼休み時の「ひだまり読書」で読み聞かせ、出雲郷児童クラブの長期休暇中には、チームひだまりによる読み聞かせ「ひだまりタイム」といった活動に取り組んでいます。活動先あつてのボランティア活動ですので、活動させていただくことに感謝し、関係先との意思疎通を図

り、共通理解を持つて子どもたちと向きあう必要性を感じています。

スタートから4半世紀、実践のなかで培われたひだまりカラーを大切にしながら、今後も読み聞かせボランティアとして、地域の子どもたちの読書推進に貢献し続けていけるように、メンバー全員で力をあわせて歩んでいきたいと思っています。

くれよん・くらぶ

代表者 岡本 由紀

熊本県菊池市

〈推薦〉

熊本県読書推進運動協議会

読み聞かせグループ「くれよん・くらぶ」は1966年、七城小保護者有志により子どもたちの読書意欲向上のため活動を開始した。

当時のPTA母親部長を発起人・代表とし、学校の図書館担当者(後の司書教諭)筆者が事務局を務めた。読書指導に造詣の深い元教師を顧問に迎え例会を開き、読み聞かせの基礎や技術・本選び等指導を受け、意見交換しあい、学びあひながら活動を始めた。地元七城小での活動に限定し朝の

読み聞かせを続け、わが子・地域の子に本の楽しさ、読書の素晴らしさを伝えてきた。英語の堪能なメンバーはALTとともに英語の読み聞かせにも取り組んだ。演劇部出身、声優志望と人材豊富だった。

子どもたちは毎回、机椅子を移動し教室の中央に集まり、行儀よく座って迎えてくれる。わずか15分の物語に集中して見入り聞き入ってくれる。ときには自由な言動もあるが、絶妙なつつこみは的を得たものばかりで、これをうまく受けてふくらませることができると読み手冥利につきる。

絵本の読み聞かせを基本に、大型絵本や紙芝居、素話や手遊び、パネルシアター、エプロンシアターなども習得していくうちに、

読書週間のおはなし会の依頼を受け、1・2年生対象に各1時間ずつ行うようになった。新1年生の体験入学では、幼児対象のおはなし会を担当した。学校のPTA行事「くまもと地域子育てスクール」では1年生保護者を対象に、読み聞かせの際の子どもたちの様子や家庭での読み聞かせの大切さを講話した。ブックスタート事業、水図書館のおはなしマラソン(夏休みおはなし会)への協力も続け

た。2008年から数年間であつたが、七城中での読み聞かせも行った。対象が中学生になるとテーマ性のある本選びには苦心したが充実したものだった。読み聞かせボランティアの存在は、地域学校の熱意協力を得て、子どもたちと本をつなぐ活動の一助になったのではないだろうか。

2014年3月には2013年度熊本県優良読書グループ表彰を受けた。

一時は10数人いたメンバーも年々減少して4〜5人で推移し、現在は3人(実働は2人)となり、高齢化も課題である。コロナ禍で中断のあとは、学校ボランティアの一員として朝の読み聞かせに月2回行っている。

これからも、読み聞かせから小学生的読書活動が広がるよう活動を継続していきたい。



読書推進運動協議会
公式X (旧Twitter)

■日書連「秋の読者還元祭」

図書カードが当たる「読者還元祭」
今年は「Wチャンス賞」も？

日本書店商業組合連合会(日書連)は、「読書週間」期間を含む10月25日(金)から11月25日(月)まで、「BOOK MEETS NEXT」秋の読者還元祭2024を全国のキャンペーン参加書店で開催する。

この「還元祭」は、「読書週間」「本の日」と同時期の「BOOK MEETS NEXT」にあわせて実施されるもの。期間中、店頭に掲示される応募カード掲載のQR

■ブックスタート全国研修会

5年ぶりのリアル開催で
実践の交流を深める機会に

NPOブックスタートは、10月24日(木)、「ブックスタート全国研修会2024」(東京都「赤ちゃん」の笑顔からひろがるまちづくり)を、キャンパスプラザ京都第3講義室(京都府京都市)にて5年ぶりに対面形式で開催する。対象は、ブックスタートを実施、または実施検討中の自治体職員やボランティアなど。

プログラムの①「ブックスタートの『今』と『これから』」NPOブックスタートによる、ブックスタートの理念と各地の事例の紹介 ②インタビュ映像「専門家から見たブックスタートの可能性」秋田喜代美さん(学習院大学教授)、遠藤利彦さん(東京大学大学院教授、大日向雅美さん(恵泉女学院大学学長) ③事例報告 発表者 京都府京都市子ども家庭支援課 大阪府豊中市 読書

「スピードくじ」方式が採用される。また、キャンペーン終了後には、別途「Wチャンス賞」も予定されている。

「図書カードネットギフト」は、スマートフォンで使える図書カードで、すべての図書カード取扱店で使用できる。

「秋の読者還元祭」の詳細は日書連ホームページを参照のこと。

●日書連ホームページ
https://www.n-shoten.jp/

「秋の読者還元祭」キャンペーンQRコード



振興課 ④交流会 参加者同士での情報交換

参加費は無料だが、事前の申し込み(10月10日(木)締め切り、定員100名、先着順)が必要。NPOブックスタートサイトより申し込みができる。また、12月〜2月にかけて、オンラインで別プログラムでの研修会開催も予定されている。

●NPOブックスタートサイト
https://www.bookstart.or.jp/

NPO ブックスタート全国研修会ページ QRコード



事務局報告(8月)

☆7日 機関紙「読書推進運動」681号 入稿

☆8日 2024年第78回「読書週間」ポスター印刷会社に入稿

☆8日 機関紙「読書推進運動」681号 専属

・9日 令和6年度文部科学省「子供読書活動の推進等に関する調査研究」案提出

☆13日 16日 事務局夏季休業

☆19日 2024年第78回「読書週間」ポスター初校出校

☆19日 出版クラブ震災対策室 第1回運営委員会出席

☆20日 機関紙「読書推進運動」681号 出来

☆26日 2024年第54回「野間読書推進賞」第1次選考事業委員会

☆27日 2024年第78回「読書週間」ポスター再校出校、校了

「広瀬恒子さんを偲ぶ会」のお知らせ

3月に逝去された、親子読書地域文庫全国連絡会「親地連」の元代表・広瀬恒子さんを偲ぶ会が左記のとおり、開催されます。

日時：2024年10月20日(日) 午後2時から4時まで

会場：出版クラブビル 3・4階 東京都千代田区神田保町1-32

(東京メトロ半蔵門線 都営地下鉄新御橋・三田線A5出口より徒歩2分)

会費：1000円 (お香典・供花は遠慮ください。平服にてお越しください)

主催：親子読書地域文庫全国連絡会 協力：一般社団法人 日本子どもの本研究会

詳細・参加申し込みは、親地連ホームページ(www.oyatiren.info) 電話 090-4121-9667 おやちれんまで。

●編集部&事務局のひとこと

●巻頭をいただいた菊池壮一さんの元職場、リプロ池袋店は、その前身の西武ブックセンター時代を含め、私の思い出の本屋さんです。

●池袋駅を頂点とする鉄軌沿線です。家族のお出かけ先は池袋だった子ども時代。デパートのエスカレーターをいくつも乗って西武ブックセンターにたどり着くと、目の前に広がる本の世界、大理石の柱やカウンターにはアンモナイトもひっそりと隠れている光景が大好きで、いろいろな書架を回って、冒険してました。

●大学生となり、池袋が通学路になった学生時代、リプロは最高の待ち合わせ場所でした。まだ携帯電話が普及していない時代で、トラブルなどで時間に遅れることがわかっていても、連絡手段はありません。でも、相手がリプロにいるのなら、退屈することなく、時間を過ごしても、じっくり本を探していられる。合流したとき、どこのコーナーにいてどんな本を見ていたかで、それまで知らなかった相手の一面が見えてくることもありました。待たされてもイライラすることはありませんが、(私だけかもしれませんが)。

●スマホですぐにメッセージが送れる現在、こんなんびりした待ち合わせは、私にはもうできません。菊池さんは「スマホに読書時間が奪われていく」と述べていますが、読書時間だけではなく、本と過ごす時間そのものも、奪われているように思います。

(伸)